

英彦山 「守静坊」の甦生

経過のご報告



徳積

一般財団法人

徳積財団

TOKUTSUMI FOUNDATION

はじめに 甦生の進捗

現在、英彦山の宿坊の甦生に取り組んでいます
がいつものことながら困難続きです。これまでの
経験から概ね慣れてはきましたが、信じる心
は変わらぬものの現実の対応には決断ばかりが
必要で心身の疲労は蓄積していきます。

振り返ってみると、これまでも古民家甦生は無
理難題の連続でした。当然ながら、費用の問題。
大工さんや職人さんたちは一生懸命に取り組ん
でいますからそのお支払いが必要です。なぜ今
まで何とかなってきたのかが不思議なほどで、
その都度に知恵を出したり周囲の方々からのご
寄付をいただく中で何とかなってきました。

そして次に建物の問題。私がやる場所は皆が
手入れをやめて荒廃していよいよ最期かとい
うところのものしかご縁がありません。中もぐ
ちゃぐちゃで、木材などもシロアリ被害にあっ
ていて思った通りに工事が進みません。

他にも私の無知からの不手際でご迷惑をおかけ
したり、本業の仕事ができなくなりみんなに迷
惑をかけたり家族との時間が減り家事を任せき
りになっていたり、いろいろとあります。

何よりも大変なのは、本質を守り続けるために
ブレないで最後まで貫遂するための自分自身と
の正対です。

私に取り組むときに最初に決めるのは、「家が
喜ぶか」「本物の和にしたか」そして「子ども
に恥じないか」ということです。今回の宿坊は
それに加えて、お寺ということもあり「布施行
を貫き仲間を増やし、“いのりの場”として子孫
に繋ぐためのプロセスを重んじたか」と、取り
組みの際の自戒を定めてやっています。

何度も費用のことや、楽にやろうとしたり、時
間がないなかで時間を取ってかける方を選択し
たり、ブレないで自戒を大事に取り組みんで
きました。夜中に夢にうなされたり、山の中の
寒さで冷え切り体調が著しく崩れたり、心ここ
にあらずで怪我をしてしまったり、ストレスで
頭痛や胃腸を悪くしたりと、思っていた以上に
堪えました。

しかし、そんな時こそ足るを知り、いただい
ている方を観て感謝すると同時に、信じてくれた
自分や周囲の御蔭様に勇気をいただき前進して
ここまで来ました。周囲には、順風満帆で明る
くやっていますし私自身も弱さを公開せずに徳
を積む仕合せをこぼれさせようと顔晴ってい
ますからなかなかこんなことを伝えることがあ
りません。

むかしの諺に「武士は食わねど高楊枝」があ
ります。これは誇り高い武士はどんなに貧しく
ても、腹いっぱい食べたかのように楊枝を使っ
て見栄を張っていたというものです。これは見
栄をはっていたのでしょうか？

実際には、江戸時代の武士の多くは今でいう
政府や役所のお役人でした。彼らの多くは私利
私欲に走ることなく世の中のため、民衆のため
に働いた公人でした。現代のように裕福でモノ
に溢れた時代もある中でも為政者としての武士
の倫理規範をもち、無私の奉仕、誠実な生き様
を瘦せ我慢をしてでも実践した言葉です。

現代において、「価値がない」と大切な伝統が
捨てられ、本物の文化が荒廃していくのを見過
ごしたくはありません。私のように何でもない
凡人でも、環境がなくても、真摯に取り組めば
甦生はできるということをこの姿から何か感じ
てほしいと宿坊の甦生に取り組んでいます。

かつての山伏もまた、山で暮らし山を守り、
日々に修行に精進して気品高く人々のために盡
してこられました。私にとっての山伏は、先ほ
どの武士は食わねど高楊枝で尊敬する先人であ
り先達なのです。

その暮らしを甦生するためにも、私自身が同じ
境地を少しでも感じたいとこの今も甦生に取り
組んでいます。今回の英彦山「守静坊」の甦生
は、できる限り多くの方々のお布施や托鉢、そ
して英彦山を愛し、日本の誇りを甦生するた
めの寄付をなるべく多くの一人ひとりから集め
たいと願っています。

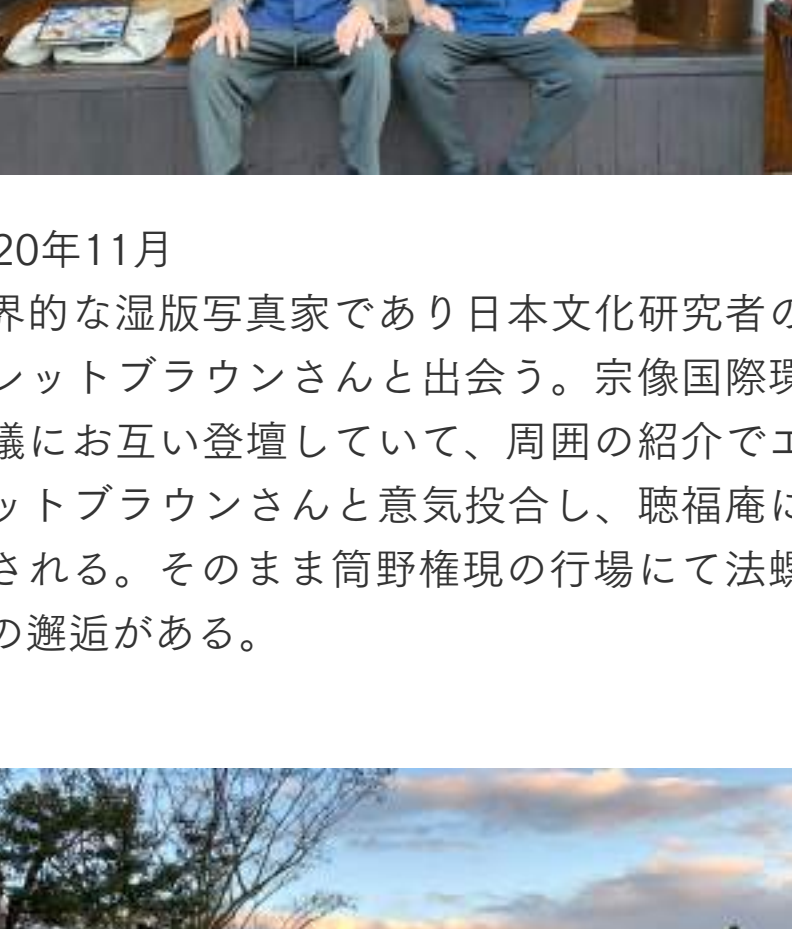
それが日本人の心のふるさとを思い出し、日
本の初心を甦生させることになると信じている
からです。途中経過になりましたが、今の私の
心境です。皆様の心に何か伝わり、一緒に徳
を積むことの仕合せや喜びがこの社会をさら
に磨き上げて素晴らしくしていくことをいの
っております。

宿坊が甦生し、皆さんにお披露目できるのは
新緑の頃になると思います。

ぜひ、この「いのりの場」に来ていただくご
縁がありましたら心に懐かしい未来の美しい
風景が宿りますことを念じております。残り
の期間、しっかりと取り組みます。



英彦山甦生までの経緯



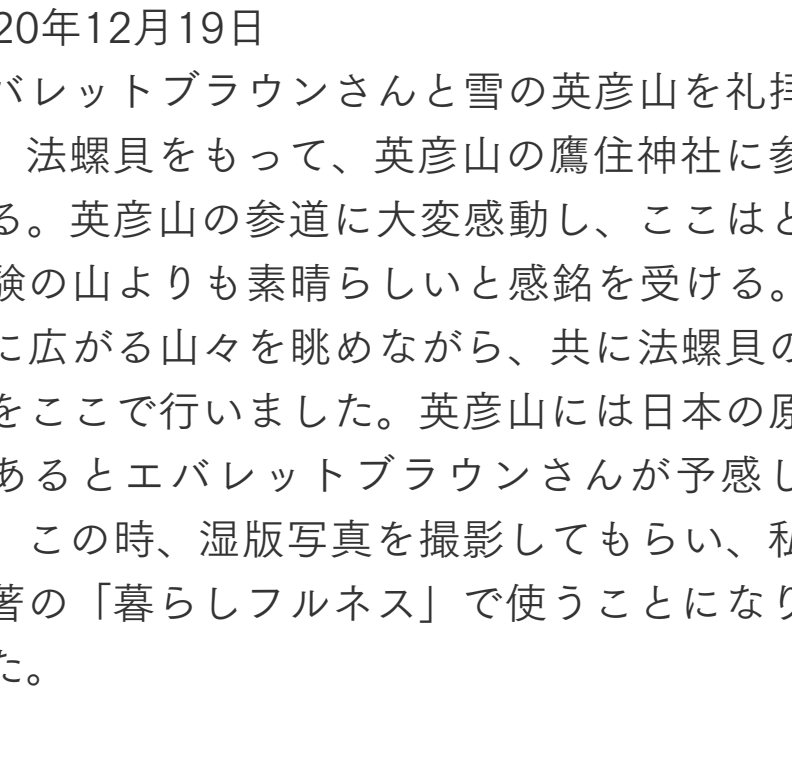
2020年11月

世界的な湿版写真家であり日本文化研究者のエバレットブラウンさんと出会う。宗像国際環境会議にお互い登壇して、周囲の紹介でエバレットブラウンさんと意気投合し、聴福庵に来庵される。そのまま筒野権現の行場にて法螺貝との邂逅がある。



2020年11月10日

京都にて法螺貝の修行。エバレットブラウンさんと京都の南禅寺の龍螺師の南先達に法螺貝のご指導を受ける。そのまま鞍馬寺にいき、エバレットさんと二人で雪の中、法螺貝の修行。鞍馬寺の本堂で一緒に法螺貝を奉納する。ここで英彦山のことを予感し、英彦山のことを祈願する。



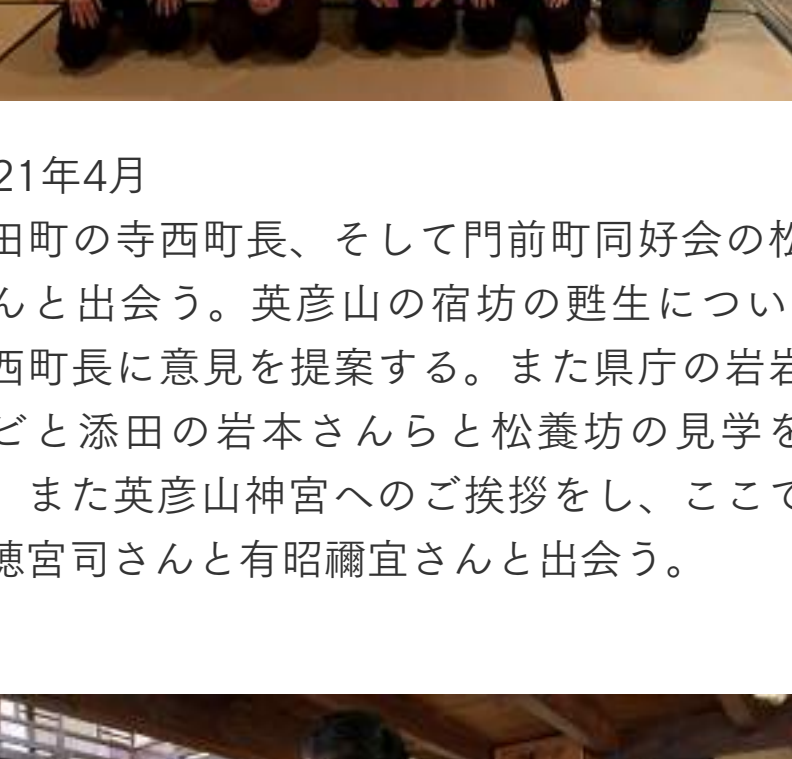
2020年12月10日

ヤマップの春山さんとBAで語り合う。宗像国際環境会議で、私が座長をした座談会にヤマップの創業者春山慶彦さんが参加する。そしてその時の仲間たちと、BAの祐徳大湯殿石風呂サウナに入る。その時に英彦山のこと、巡礼路の復活のことで意気投合する。



2020年12月19日

エバレットブラウンさんと雪の英彦山を礼拝する。法螺貝をもって、英彦山の鷹住神社に参拝する。英彦山の参道に大変感動し、ここはどの修験の山よりも素晴らしいと感銘を受ける。壮大に広がる山々を眺めながら、共に法螺貝の修行をここで行いました。英彦山には日本の原点があるとエバレットブラウンさんが予感します。この時、湿版写真を撮影してもらい、私の新著の「暮らしフルネス」で使うことになりました。



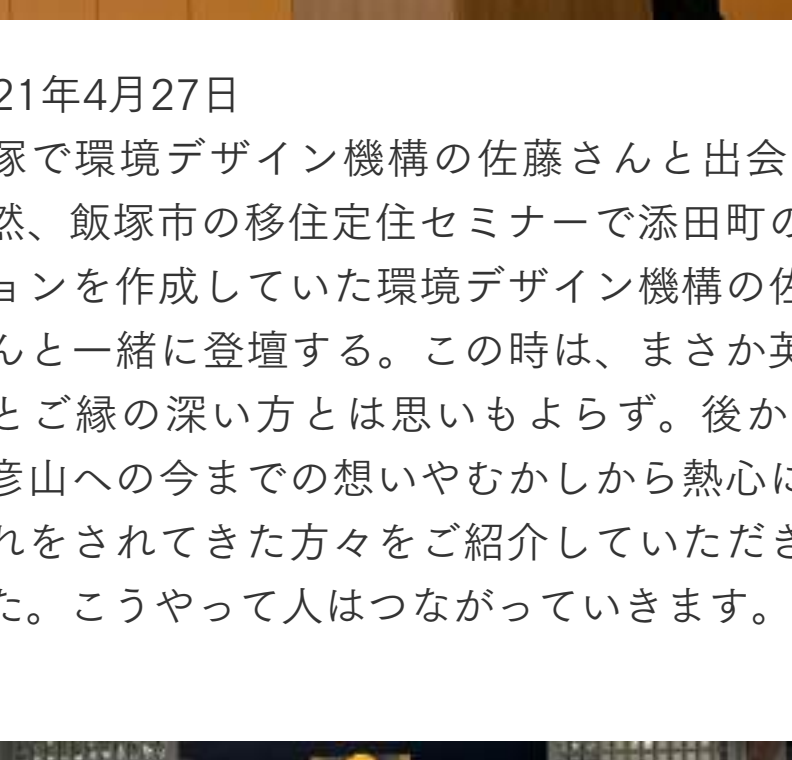
2021年3月4日

福岡県庁の岩岩コンビと出会う。県庁の岩尾さん岩下さんが聴福庵に来庵され英彦山の宿坊の甦生を強く勧められる。この時は、増了坊という鍋島藩の宿坊を甦生する話で最初はヤマップが宿坊を直し、私とその甦生のお手伝いをするという計画でした。ここから県庁の岩岩コンビとの幾度も英彦山行脚と英彦山甦生の打ち合わせが始まります。



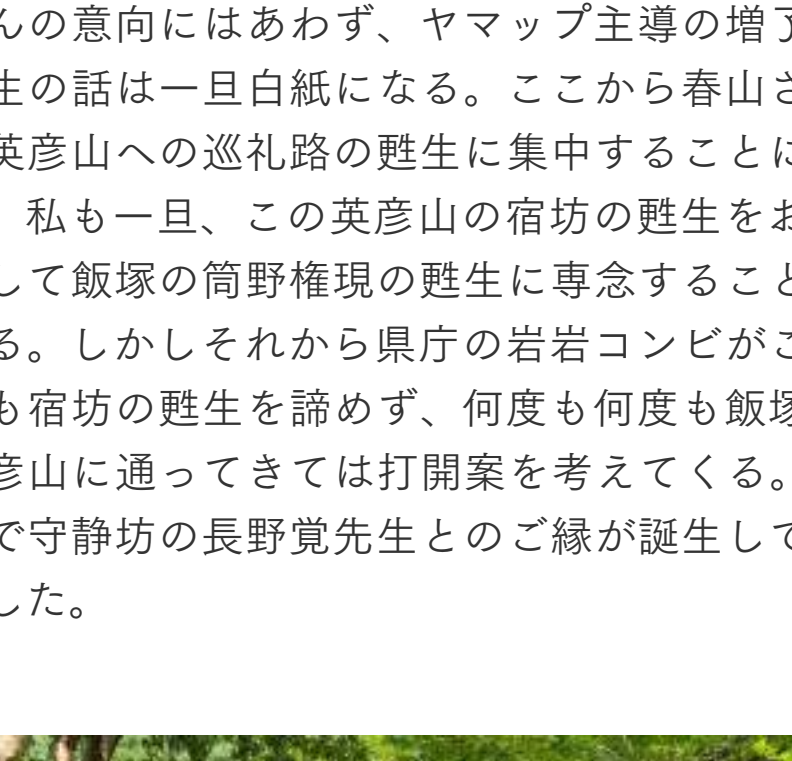
2021年3月11日

ついに現存する中で最古の宿坊、「守静坊」と出会う。英彦山の霊泉寺の高田住職から守静坊をぜひみてほしいといわれ見学。エバレットブラウンさんが一目で気に入り、ここで仙人をしたいという。この宿坊の坊主は長野覚先生という山伏研究の第一人者の素晴らしい方だとお聞きする。添田町役場の文化専門官の岩本さんと、観光課の齋藤さんにも出会い、守静坊の甦生の相談を開始する。



2021年4月

添田町の寺西町長、そして門前町同好会の松養さんと出会う。英彦山の宿坊の甦生について、寺西町長に意見を提案する。また県庁の岩岩コンビと添田の岩本さんと松養坊の見学をする。また英彦山神宮へのご挨拶をし、ここで高千穂宮司さんと有昭禰宜さんと出会う。



2021年5月1日

英彦山の甦生について英彦山神宮の有昭禰宜さんとビジョンの共有。聴福庵にて、修験の甦生を志している高千穂禰宜と意見交換をする。英彦山への想いや、修行への熱意をお聞きし、胸を打つ。その場では、増了坊の甦生についてのプレゼン会を実施する。この時は、まだ増了坊をなんとかしようということのみんな心一つにしていました。



2021年4月24日

徳積財団一周年記念イベントを開催する。徳積堂カフェで、歴史研究家の福永晋三先生と、英彦山と古代史についての勉強会イベントを開催。徳積財団の最初のイベントは「古代からの徳を掘り起こす」ことで実施しました。講演の演題のメインテーマは、英彦山としました。ここで古代史に興味のある方や英彦山にご縁の深い方々が繋がりました。

2021年4月27日

飯塚で環境デザイン機構の佐藤さんと出会う。偶然、飯塚市の移住定住セミナーで添田町のビジョンを作成していた環境デザイン機構の佐藤さんと一緒に登壇する。この時は、まさか英彦山とご縁の深い方とは思ってもよらず。後から、英彦山への今までの想いやむかしから熱心に手入れをされてきた方々をご紹介していただきました。こうやって人はつながっていきます。

2021年5月1日

聴福庵で増了坊の坊主、黒川親子と交渉する。松養さんも来てくださり、聴福庵で一緒に宿坊の甦生のためのプレゼンをする。この時は黒川さんの意向にはあわず、ヤマップ主導の増了坊再生の話は一旦白紙になる。ここから春山さんは英彦山への巡礼路の甦生に集中することになる。私も一旦、この英彦山の宿坊の甦生をお断りして飯塚の筒野権現の甦生に専念することになる。しかしそれから県庁の岩岩コンビがこの後も宿坊の甦生を諦めず、何度も何度も飯塚や英彦山に通ってきては打開案を考えてくる。そこで守静坊の長野覚先生とのご縁が誕生してきました。

2021年6月16日

守静坊の見学を県庁の岩岩コンビと行う。宿坊の甦生を諦めない岩々コンビのお二人から、ありとあらゆる方法がないか、どのように甦生するかなど情熱的な質問攻めに遭う。この時は、あまり乗り気でもなく筒野権現で忙しくて大変でした。ただ長野覚先生へのご挨拶と宿坊の甦生計画を立てました。

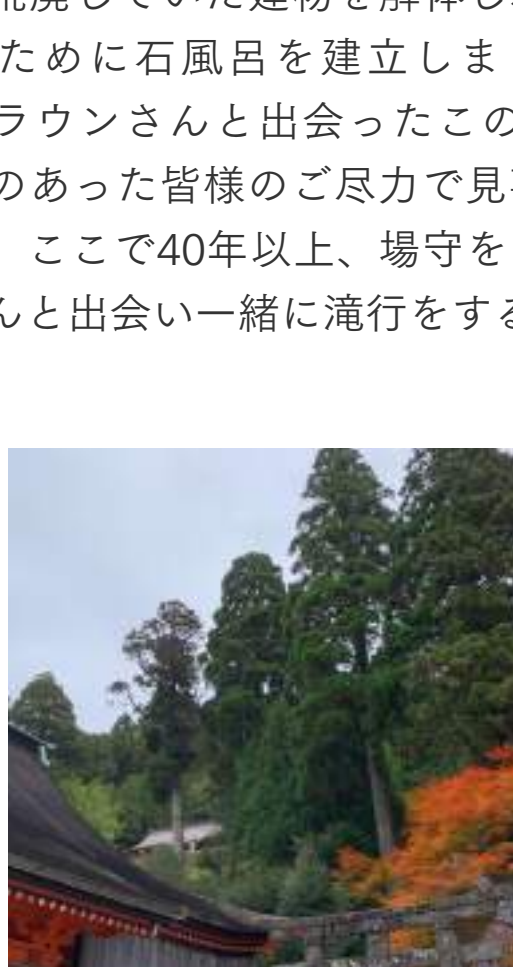
2021年6月30日

霊泉寺の修繕と喜捨をする。実は、私の名前はこの霊泉寺の先代のご住職が名付けてくださったものです。本来、広昭だったのを広明としたのはちょうど私が産まれて1週間で名前を悩んでいて相談にいったところアドバイスをしてくれたそうです。祖父が英彦山が好きで、幼い私をいつも連れてきてくれました。参道を駆け上がり自然に手を合わせて、英彦山にも拜んでいた記憶があります。



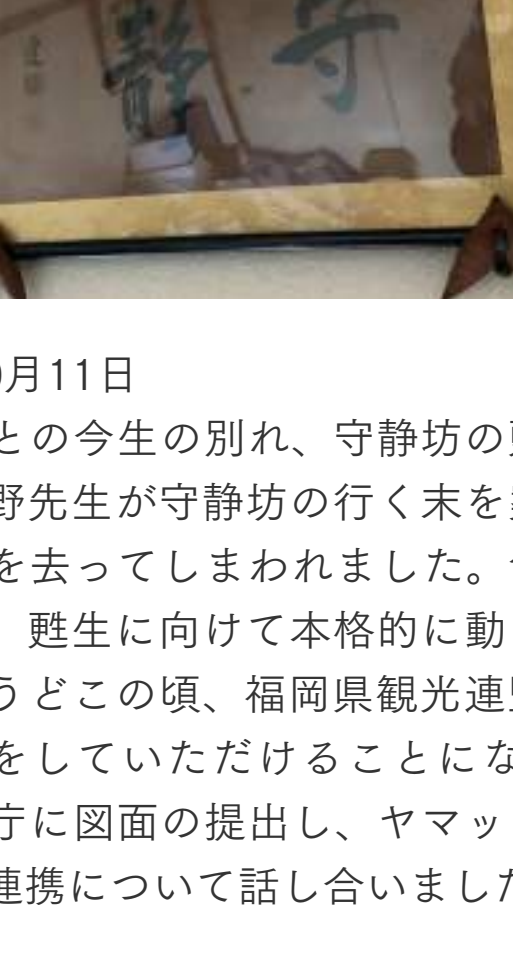
2021年7月3日

ついに守静坊10代目坊主、長野先生と出会う。添田の岩本さん、県庁の岩岩コンビとエバレットさんと一緒に、長野先生の福岡市のご自宅へ訪問する。坊家の話や修験の話、そして日本文化、山伏のこと、今までの経緯などを語り合う。ずっと気になっていた守静坊を徳積財団に託したいと、相談される。エバレットブラウンさんにも英彦山のことを頼みたいとお話がある。



2021年7月5日

筒野権現谷でエバレットさんと滝行をする。この滝場で荒廃していた建物を解体し、禊場の甃生をするために石風呂を建立しました。エバレットブラウンさんと出会ったこの場も4か月後にご縁のあった皆様のご尽力で見事に修繕できました。ここで40年以上、場守をされてきた植杉泉さんと出会い一緒に滝行をする。



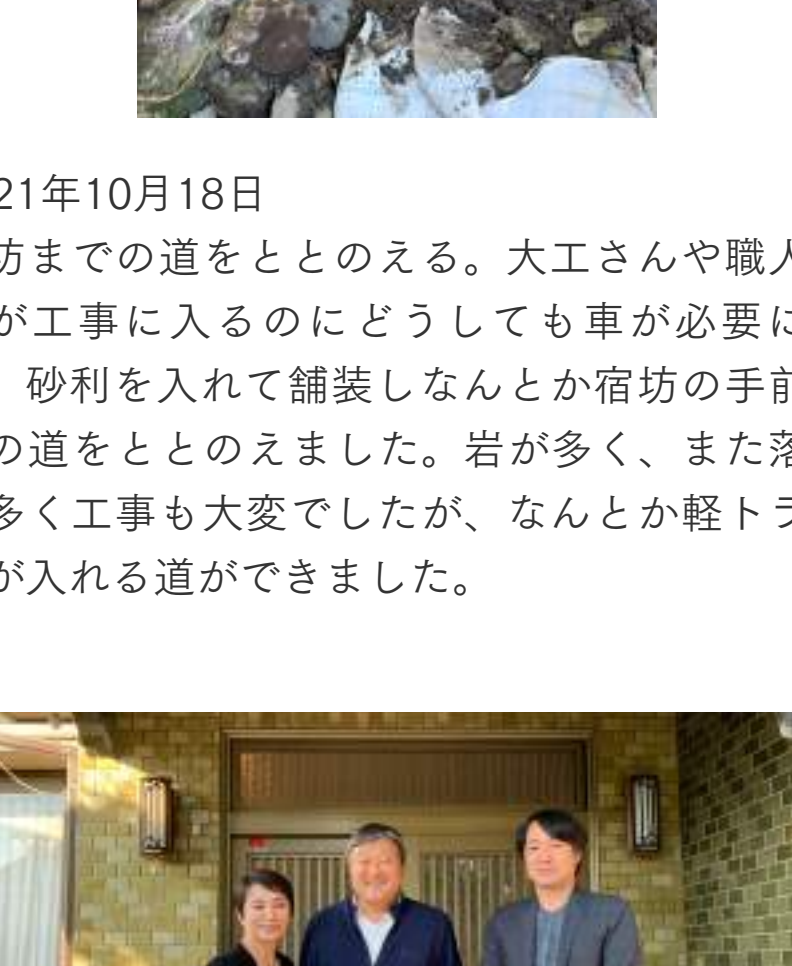
2021年8月30日

英彦山神宮へ徳積財団理事長と事務局長と訪問する。高千穂宮司さんと禰宜さんと、今後の英彦山のこと宿坊のことについて語り合いました。また徳積財団で、守静坊を引き受けることを報告し、私も英彦山の甃生に覚悟を持って取り組む事を正式に表明しました。守静坊の甃生後、増了坊の甃生に取り組むことや、宿坊全体の甃生に取り組むこと、また上宮の修繕費用を財団で集めることなどを話しました。



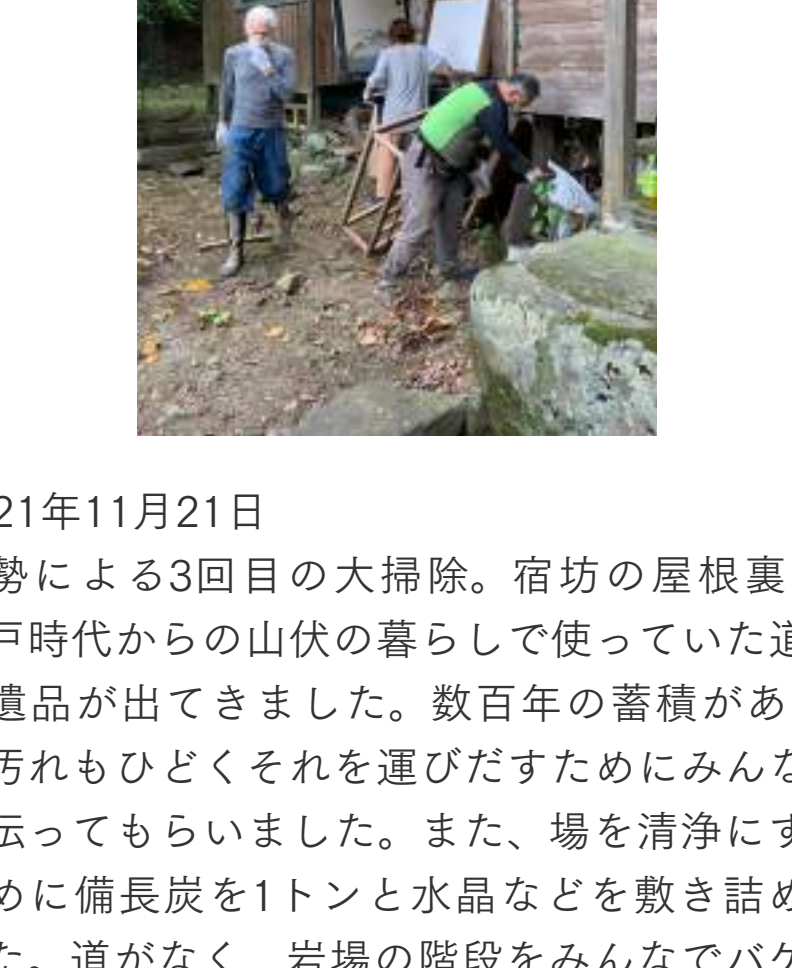
2021年10月11日

長野先生との今生の別れ、守静坊の甃生がはじまる。長野先生が守静坊の行く末を案じながらもこの世を去ってしまわれました。色々なものを託され、甃生に向けて本格的に動き始めました。ちょうどこの頃、福岡県観光連盟との出会い、支援をしていただけることになりました。また文化庁に図面の提出し、ヤママップさんと巡礼路との連携について話し合いました。



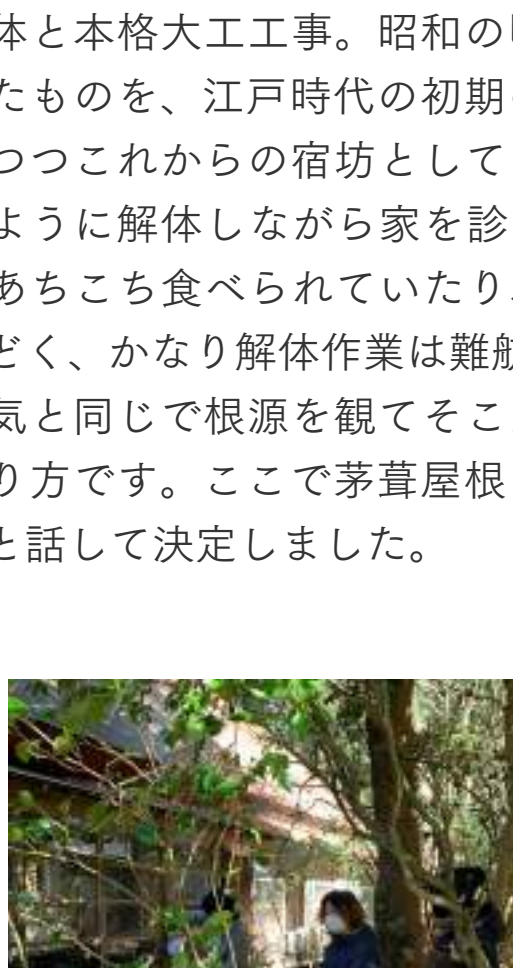
2021年10月11日

有昭禰宜さん御祈祷そして中の掃除を開始。守静坊にて、工事の安全と無事を祈願していただきました。神道の祝詞から、修験の勤行まで高千穂禰宜さんと一緒に行いました。膨大な荷物や、散らかった動物の糞などを片付け、仮の祭壇を設けました。不思議なことに福智権現の額が出てきたのでそれを中心にお祀りしました。まずは少人数で丁寧に家の中のものを外に出していきました。



2021年10月16日

大勢による2回目の大掃除、外のゴミを運び出す。宿坊の中の今までのゴミが大量にありましたが、場所が悪く車が入れずに困っていたところ、大勢の方々ボランティアとして参加し、片づけを手伝ってくれました。中には、英彦山神宮の高千穂禰宜、宮司さん、霊泉寺の高田さん、添田町役場の職員さん、飯塚の和楽を甃生した時の結友、他にも友人たちが駆けつけ手伝ってくれ、中のゴミを運び出すことができました。



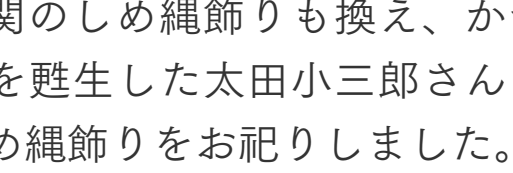
2021年10月18日

宿坊までの道をととのえる。大工さんや職人さんが工事に入るのにどうしても車が必要になり、砂利を入れて舗装しなんとか宿坊の手前までの道をととのえました。岩が多く、また落石も多く工事大変でしたが、なんとか軽トラックが入れる道ができました。



2021年11月1日

お布施、托鉢を開始する。宿坊を甃生にするのに、どうしても工事費など多大な費用が発生します。私も人生ではじめてでしたがお布施と托鉢をはじめました。最初の托鉢先は、友人の御紹介で静岡県の富士宮まで訪問し感謝と報告をしてきました。不安の中、とても徳の高い方と出会い心が安らぎました。



2021年11月21日

大勢による3回目の大掃除。宿坊の屋根裏に、江戸時代からの山伏の暮らして使っていた道具や遺品が出てきました。数百年の蓄積があり、煤汚れもひどくそれを運び出すためにみんなに手伝ってもらいました。また、場を清浄するために備長炭を1トンと水晶などを敷き詰めました。道がなく、岩場の階段をみんなでパケツリで運びいれました。有難かったです。また木材と炭の搬入も行いました。たくさんの古文書やお椀、福智権現の額が出たり、御札お守り、歴史的な遺品を片づけました。

2021年11月29日から

建物の解体と本格大工工事。昭和の頃に大きく改装されたものを、江戸時代の初期の頃の間取りに戻しつつこれからの宿坊としてのお役目が果たせるように解体しながら家を診ました。シロアリにあちこち食べられていたり、屋根裏の傷みもひどく、かなり解体作業は難航しました。しかし病気と同じで根源を観てそこから直すのが私のやり方です。ここで茅葺屋根にすることを理事長と話して決定しました。

2021年12月10日

大勢による4回目の大掃除。解体作業で出た、大量の廃材の運び出しと家の周辺の片づけ、遺品整理をまたみんなが手伝ってくれました。毎回、30人から40人くらい集まってくださったので、本当に短い間に片づけができました。それに毎回、お昼ご飯に温かいお鍋をみんなで食べて笑顔も多く仕合せなひと時でした。ずっとこんな日が続いたらと思う大掃除でした。

2021年12月28日

長野覚先生の遺品を伝承する。長野先生の娘さんから、生前にいただいた言伝や志、遺品を伝承しました。具体的には、守静坊の伝来の神鏡、額、勾玉、そのほか歴史的な板戸などです。また墓前にお参りして決意と覚悟を誓いました。

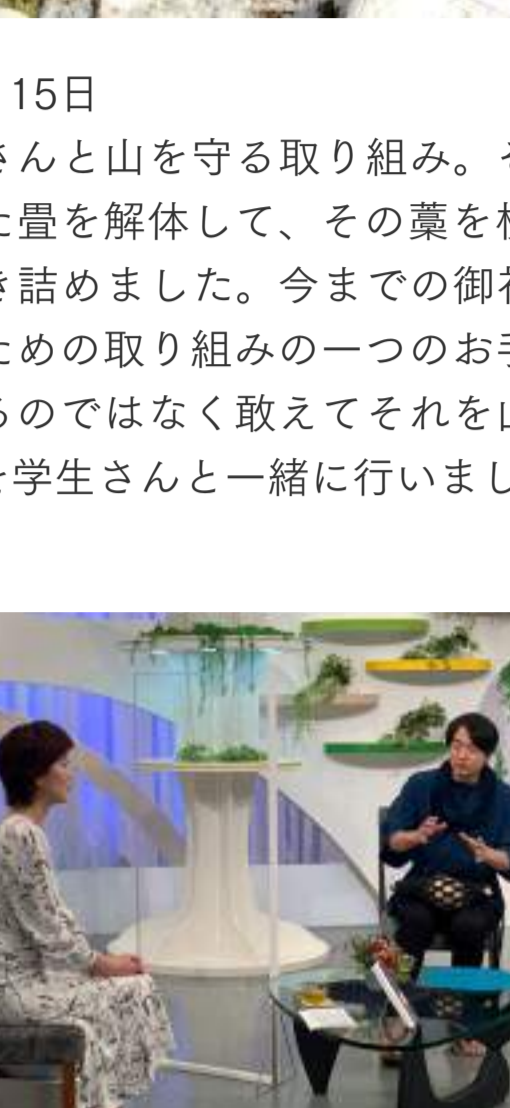
2021年12月31日

祭壇を設け、鏡餅やしめ縄など年越しの祈祷。大工工事中ではありましたが、年越しだけは家が休まるようにと正月の御祈祷と室礼を行いました。玄関のしめ縄飾りも換え、かつて伊勢神宮の神域を甃生した太田小三郎さんに肖ろうと伊勢のしめ縄飾りをお祀りしました。



2022年1月5日から

雪の中の大工工事。いよいよ恐れていた積雪の時期が英彦山に訪れ、大雪でも道をかき分けて大工工事を行いました。家の中も氷点下で、手足もしびれる寒さの中で大工さんが一生懸命に工事をしてくださいました。これからの工事が大変厳しいものでした。



2022年1月15日

佐野豊屋さんと山を守る取り組み。それまで使われていた畳を解体して、その藁を枝垂れ桜の周辺に敷き詰めました。今までの御礼と、山で循環するための取り組みの一つのお手本にしようとして捨てるのではなく取ってそれを山に還すということを学生さんと一緒に行いました。



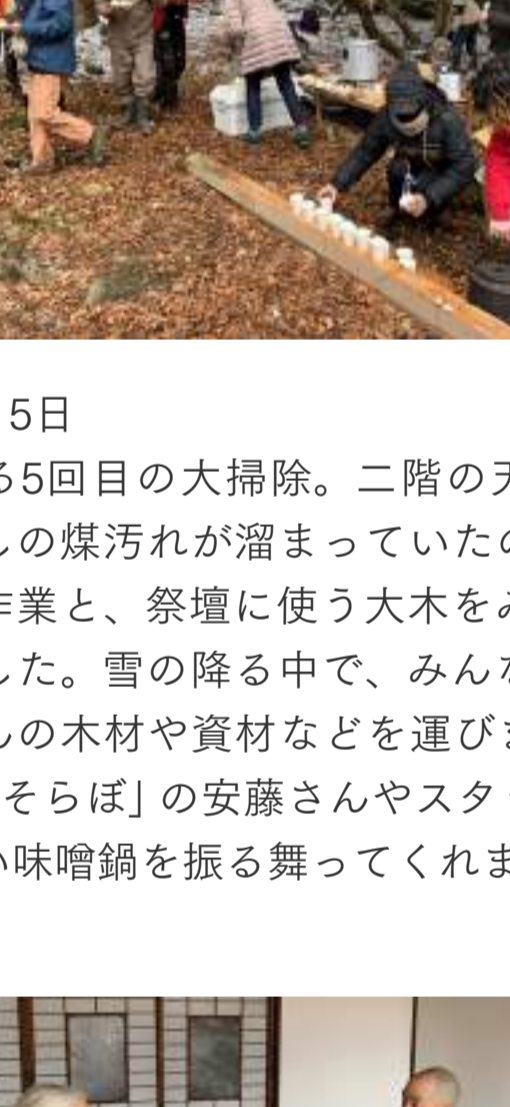
2022年1月24日

RKBトコワカにて、英彦山甦生の声掛け。宗像国際環境会議でご縁をいただいたRKBさんから英彦山宿坊甦生のことを発信したらよいと番組を紹介していただきました。御蔭様で、アナウンサーの池尻さんやスタッフの方々にはわかりやすく私たちの取り組みのことをご紹介していただきました。



2022年1月28日

枝垂れ桜の樹木医との出会い。今では有名な守静坊の枝垂れ桜ですが、かつては台風で傷み枯れかけていた時がありました。それを樹木医の宇佐美様がお手入れして甦生したことを聞きその息子さんとお会いしました。ずっと毎年、手弁当で枝垂れ桜のお手入れを長野先生と一緒にされていたそうで今の桜が咲くのはお二人の御蔭だと改めて感謝しました。



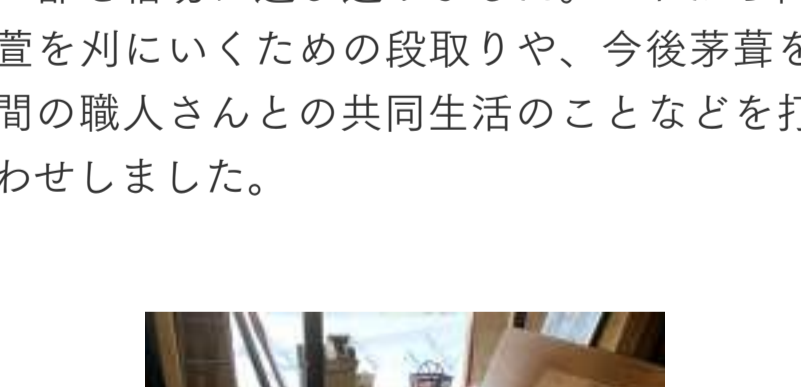
2022年2月4日

立春に、英彦山の甦生の座談会を実施。徳積財団主催で、飯塚の「場の道場」で英彦山神宮の高千穂禰宜、文化専門官の岩本さん、古代史研究の福永晋三先生、歴史研究者の白川先生、日本文化研究者のエバレットブラウンさんと私で「英彦山の徳」についての座談会を行いました。改めて、英彦山の甦生にどのような意味があり、どれだけの価値があることなのかをみんなで学び合いました。



2022年2月5日

大勢による5回目の大掃除。二階の天井裏にさらにむかしの煤汚れが溜まっていたのでそれを取り除く作業と、祭壇に使う大木をみんなで運び入れました。雪の降る中で、みんなで協力してたくさんの木材や資材などを運びました。お昼には「みそらぼ」の安藤さんやスタッフの方々が美味しい味噌鍋を振る舞ってくれました。



2022年2月6日

禅の雲水、星覚さんとの出会い。托鉢をしていく中で、托鉢のこと布施のことを学び合う時間をいただきました。一緒に筒野権現で座禅や法螺貝をしたり、私たちの取り組みを伝えるために必要な映像の撮影に協力していただきました。ここでいただいたお布施のことは忘れることができません。



2022年2月15日

茅葺屋根の準備のために萱を運び込む。伝統の茅葺職人集団の阿蘇茅葺工房の方々と一緒に萱の一部を宿坊に運び込みました。これから阿蘇に萱を刈っていくための段取りや、今後茅葺をする間の職人さんとの共同生活のことなどを打ち合わせしました。



2022年2月19日

人々が憩う囲炉裏の完成。宿坊の中心に囲炉裏を甦生しました。かつての宿坊の役割が果たせるように、今回は縁に使う木材もこだわり、また銅板を加工していただきました。この囲炉裏は、人々を笑顔にする場所になり、それを見守る仙人たちがいるように周辺をデザインしました。

2022年2月22日

いのりの場の甦生。これからもう一度、人々が祈りをし安らぐ場ができるように祭壇を甦生しました。祭壇の木には、福井県の永平寺からきた伝統の木材、また上野焼総本家の渡様から喜捨いただいた福地権現の隣にあったご神木の材、そして壁面には守静坊で檀家さんを見守ってきた板絵を張り込みました。これから、大勢の人たちがこの場所で祈りを捧げ、皆さんが合わせになることを見守り続けることになると思います。



2022年3月5日

阿蘇へ茅を刈りにいく。茅葺職人たちが育てている茅を、結の仲間たちを集めて刈りにいきました。阿蘇の方々には毎年野焼きをしてこの阿蘇の茅を守り続けておられます。その御蔭で阿蘇は広大な高原に緑豊かな生態系が守られます。その茅を使い続けていくことで、九州は守られていることを知りました。この阿蘇の茅で英彦山の山を守る活動ができることに仕合せを感じました。子どもたちも一緒に茅を刈り、その大切さを伝承できました。



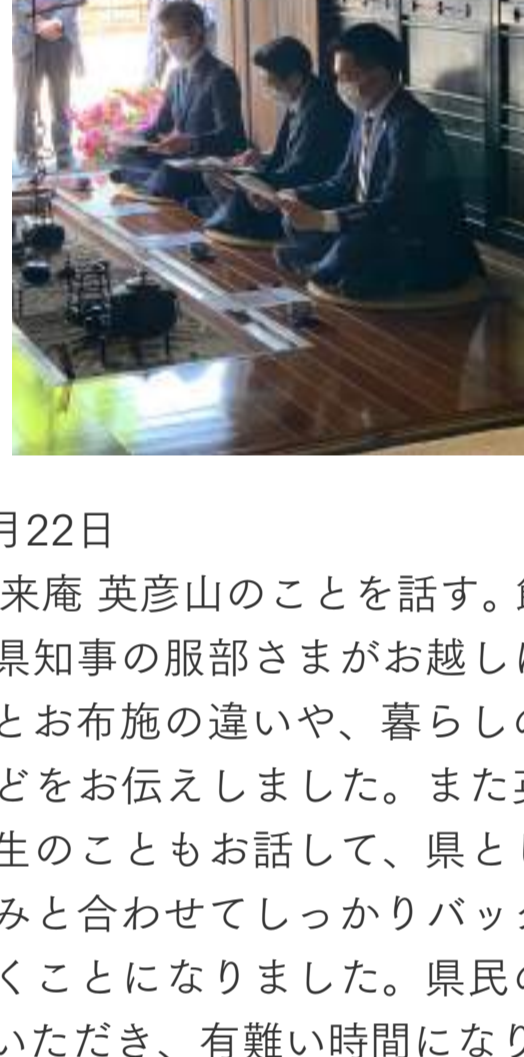
2022年3月19日

足場工事 枝垂れ桜の支柱 結。220年の枝垂れ桜の支柱を、それまでの鉄パイプから樹齢90年の杉に換えました。この杉は、杉岡木材の杉岡さんがお布施していただきました。これを結でまた60名以上ご加勢いただいた方々と共に据えていきました。また重たい鉄パイプの足場をみんなで協力して運び込みました。枝垂れ桜の周囲には大量の茅を敷きふかふかの土をこれからつくり桜も快適に育つような環境をつくります。



2022年3月28日

クラウドファンディングを開始する。宿坊の甦生にかかる資金を捻出するためヤマップの春山さんが中心になってウェブサイトを作成して下さってクラウドファンディングを開始しました。温かい応援メッセージと共にたくさんのお布施をしていただきました。この取り組みは、自分が喜び、宿坊が喜び、英彦山も喜び、みんなも喜ぶ徳積みになっています。みんなの徳を集めて、生まれ変わる宿坊を喜び合う場にしていきます。



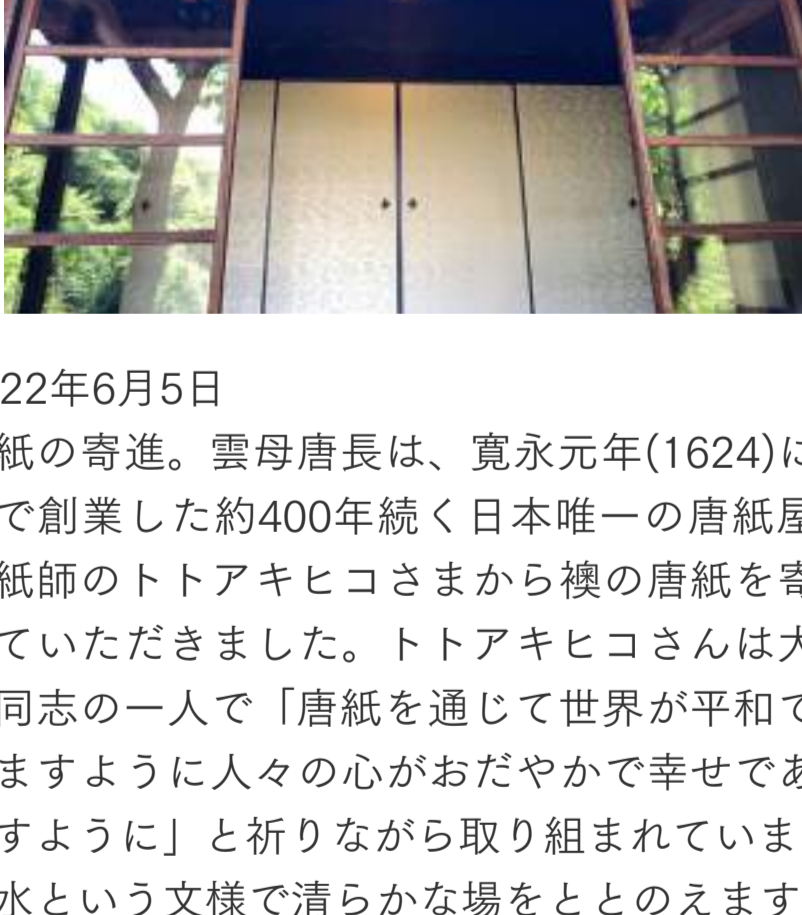
2022年4月2日

茅葺屋根葺き 結 120名。守静坊の茅葺屋根を結で集まりみんなで葺きました。なんと、各地から120名の方々がご加勢いただきみんなで茅を運びこみました。全部で2000束以上の茅を使うため、とても数人では運べません。特にこの守静坊は、山の中で車も入れないところにあります。皆さんが協力して下さった御蔭ではじめて茅が葺けます。むかしのような懐かしい未来の場所が、誕生した瞬間でした。御蔭様でまさにみんなで葺いた屋根、みんなで守った宿坊になりました。



2022年4月22日

服部知事 来庵 英彦山のことを話す。飯塚の聴福庵に福岡県知事の服部さまがお越しになりました。寄付とお布施の違いや、暮らしの徳や甦生の意味などをお伝えしました。また英彦山の守静坊の甦生のこともお話し、県としても飯塚の取り組みと合わせてしっかりバックアップしていただくことになりました。県民の声を丁寧に聴いていただき、有難い時間になりました。



2022年5月8日

節目のお祝いと結の集まり。大工さんと茅葺職人さん、また結で参加していただいた方々の労いと予祝を行いました。それぞれに今まで一番大変な現場だったと仰られていてとても感慨深い時間を皆さんと一緒に過ごしました。今回も50名以上が参加してくださり、お互いに苦労を分かち合い労い合いました。徳積財団理事長からも、みんなで甦生させた宿坊であること、その誇りと徳をお伝えして感謝の言葉で締めくくりました。午後からは、結で解体した足場と屋根トタンを運びました。この徳が未来の子孫たちに伝わることを祈り、完成まで真摯に取り組めます。



2022年5月31日

クラウドファンディング達成。皆さんの有難い喜捨の御蔭様で無事に目標の金額を達成することができました。本当に多くの方々、日ごろ離れていてお会いできない方、また一期一会にお会いした方からも多くのご支援をいただきました。いつも作業するとき、宿坊にお手つだになかなか来ることができない皆さんの代わりに御心をいただいたと覚悟を決め、徳を届けたいと取り組んできました。心を支えていただいたこと忘れません。宿坊の代えがたい大切な思い出としてもご支援を刻みました。

2022年6月5日

唐紙の寄進。雲母唐長は、寛永元年(1624)に京都で創業した約400年続く日本唯一の唐紙屋で唐紙師のトアキヒコさまから襖の唐紙を寄進していただきました。トアキヒコさんは大切な同志の一人で「唐紙を通じて世界が平和でありますように」人々の心がおだやかで幸せでありますように」と祈りながら取り組まれています。流水という文様で清らかな場をととのえます。

2022年6月19日

英彦山神宮への御礼参り。ここまで大きな怪我や事故もなく、無事に工事が完了したのは英彦山神宮、また高千穂禰宜さんたちの御祈祷の御蔭でした。その御蔭に対しての工事のご報告と神恩感謝の御祈祷してきました。厳しい工事のなかでも天候にも人にも恵まれたのは、お山のご神徳の偉大さであることを改めて実感しました。これから本格的に上宮の工事に入ることになりますが、私も宿坊から無事に工事が完了するように念じて、心からの祈りを捧げます。

2022年7月2日

守静坊 甦生感謝祭。工事が無事に終わり、甦生のお手伝いをいただいた方々に宿坊のお披露目と感謝祭を行いました。故長野覚先生に黙祷をしてお報告をし、みんなでお経や祝詞を捧げました。また宿坊の欄間に天女が描かれており、弁天様の谷であることから芸能で宿坊を喜ばせよう仲間たちがお祝いしてくれました。結(ゆい)の方々との邂逅は居心地が善く、終始あたたかい雰囲気感謝祭が行われました。苦労が報われた瞬間で、何よりもこれで宿坊や伝統の伝承がつながり結ばれたことに心から感謝しました。

終わりに

英彦山の宿坊、守静坊の甦生に賛同、ご参加いただき誠にありがとうございます。ここまでを振り返ってみると、本当に多くの方々に見守られ無事に宿坊を甦生することができました。「結」に参加してくださった方々のことを私は一生忘れません。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。

思い返せば、今回の宿坊の甦生は困難の連続でした。工事に取り組み始めてからも何十回、もしくは何百回も神様に真摯に拝み、「全身全霊で取り組むのでどうかお力をおかしてください」と祈り続けました。少し進んだと思うと、大きく後退し、善いことが起きたと思ったら八方ふさがりのような状態に陥ったり、非常な寒さで身体を壊したり、作業で怪我をしたり、眠れずに涙したり、ずっと一喜一憂してばかりの日々を過ごしてきました。

そんな中でも、本当に有難かったのは身近でいつも支えてくれたスタッフや家族、どんな時でも丸ごと信じて応援してくれた叔父。そしていつも見守ってくれていた仲間たち、結に参加し見返りを求めずに徳と一緒に積んでくださった同朋の皆様。小さなお気遣いから、大きな思いやり、取り組みに深い関心を寄せてくださった方々に心を支えていただいていたいました。

今回の宿坊の甦生で、故長野覚先生はじめこの宿坊に関わってこられた歴史の先人の皆様。そして英彦山に少しでも御恩返しすることはできたでしょうか。喜んでくださっているでしょうか、もしもそうなら努力が報われた気がします。

私たち徳積財団、及び結の仲間は宗教組織ではありません。むかしの先人たちが暮らしのなかで信仰していたように、お山やお水を拝み、いのちを大切にし、お祈りを実践し、共に生活を助け合うなかで心をむすぶために信じ合う仲間たちの結（ゆい）です。この結というのは、つながりや結びつきの中で暮らしていくという古来からの日本人の大切な知恵の一つで「和」ともいいます。

私は、「和が永続する」ことを「平和」だと思っています。そしてそれは「徳を積むこと」で得られると信じています。この徳を積むというのは、「自分の喜びがみんなの喜びになり、みんなの喜びが自分の喜びになる」という意味です。「自然」をお手本にして、全体のいのちが充実していくように、暮らしを充実させていくことです。それが「暮らしフルネス」の実践であり、徳が循環していく安心の世の中にすることだと私は思います。

そして今の私たちは「歴史を生き続けている存在」です。歴史は終わった歴史ではなく、これは今も私たちが結び続ける責任の歴史を生きているのです。今までの先人たちの徳の集積を、ここでさらに磨いてこの先の子どもたちに繋いでいくのが今の世代を生きる私たちの本当の使命ではないでしょうか。

最後に、これからこの宿坊は今も続いている歴史を紡ぎつなぎ、新たな歴史を創り続けるために親友で同志のエバレットブラウンさんが、宿坊に滞在し英彦山の徳を出版や湿版写真等で伝承してくれます。そして私は、一人ひとりの徳を尊重し合い磨き合う場として“仙人倶楽部”というものをこれから徳積堂にてはじめます。私が心から尊敬する師の一人、二宮尊徳はこれを万象具徳といい、それを顕現させるのが報徳ともいい、その思想を一円観といいました。私はこれを現代の新しい徳積循環の仕組みへと甦生させ、「平和が永続する知恵」を子どもたちに伝承していきたいと思っています。

ここまで本当にありがとうございました、そしてこれからもどうぞよろしくお願いします。

一期一会 野見山広明